

市長×若者 語らいの場 第8弾

2024

1

月号

Taga まち 通信

たがじょうたきびの会
焚火を囲み語らう多賀城の夕べ

焚

き火をメインに据えたイベントとしては第2弾となる本イベント。やや肌寒く、冬の訪れを感じ始める夕暮れの多賀城駅前広場を会場に、市長と若い世代の参加者たちが集い、時に勢いよく、時にゆるやかに、絶えず姿を変え続ける焚き火を囲みました。



語

らのテーマは「このまちで暮らしていくために自分ができること」 私たちが暮らす多賀城市を「日本一暮らしやすいまち」にするために、自分だったら何がしたいか、何が出来るかを参加者全員で考え、共有しました。



焼

き芋は今回のイベントのもう一つの肝。イベント開始前に参加者はサツマイモを焚き火に入れ、イベントの合間に出来上がった焼き芋をおいしくいただきました。サツマイモはビタミン豊富で保存食としても優秀。焚き火と食材だけで出来る焼き芋は、災害時にも重宝されます。また、今回は市内八幡からとれた、正真正銘多賀城産のサツマイモも味わいました。



hoku
hoku



今回のイベントでは、宮城県多賀城高等学校の災害科学科の皆さんに参加してもらい、「このまちで暮らしていくために自分ができること」として、多賀城の特産品である古代米を使った災害食の開発についての研究や、災害時のビタミン不足を補うための研究についてのお話をしてもらいました。

災害という事象に対して自分事として取り組む多賀城高校の生徒さんのお話を聞き、参加者の語らいにも熱が入ります。

みんなが考えた
このまちで
暮らしていくために
自分ができること

絵を書く趣味を生かして、多賀城のまちを自分のデザインやアートが取り入れられるように勉強し、将来の仕事に生かせるようにしたい



災害、防災について、Instagramや動画作成等により、情報発信する

行ったことのない市内の飲食店に行ってみる

市のLINEや情報番組等から情報を得て、イベントに参加する

(避難経路や被災地域、津波到達地点など)調べないと分からないことばかりであるから、もっと情報を地域に発信したい。

歴史のある多賀城をもっと全国に広められるようにSNSなどのツールを使って発信したい

将来は看護師になりたいと思っているが、防災の知識に明るい看護師になれば、災害発生時に一般的な看護師以上に力になれると考える。災害はどの地域でも発生しうるので、多賀城で看護師になることで、多賀城の防災力向上に貢献できると思う。



Message

今回の語らいでは、多賀城市には良い取り組みがあったり、良い場所があったり、良いポイントはあるのにそれを発信する力が弱い。動画やSNSのような情報発信を、もっと多賀城のまちづくりに組み込んでいくべきという話を皆さんから貰い、そのとおりだなという気持ちです。

そこで、僕たちがやるよりも、皆さんの方が上手くできる、得意なことがあれば、一緒に取り組んでいけたら素敵だなと思っています。

イベントの中で話にあった、市立図書館のある駅北ビルA棟で開催されていたパンのイベントをたまたまテレビで見かけたので行ってみた、という話であったり、その後開催されていた古着販売のイベントであったり、市の取り組みに限らず、いろんな人たちに向けた、いろんな取り組みが多賀城にはあるんですが、行政がそういう情報を発信しても、なかなか受け止めてもらえなかったりするんです。

そういう時に、ハッシュタグはこう付けた方がいいよとか、写真の撮り方はこの方がいいよとか、皆さんの年代の視点で多賀城の見え方を発信してもらえる機会を、今回の会をキッカケに、どんどん作ってもらえるとありがたいなと思います。



動画についても、多賀城市にYoutubeのチャンネルはあるけど、登録者数についてはあれ？という部分もあるので、是非皆さんの年代の視点で多賀城を発信したらこういうふうな発信の仕方があるよ、みたいなものを実践してもらいたいなと思います。

多賀城市長
深谷 晃祐